

FUKUSHIMA 市民 インタビュー

花咲誇る、福島の桃源郷を造る

花見山公園 4代目

阿部 晃治 さんに聞きました！



🍷 家業を継いだ
きっかけは？

農家の長男だったこともあり、自分のことで幼い頃からぼんやりと意識していました。農業系の大学に進学し、就職活動の一環で東京の市場へ研修に行った際、日本各地から集まった志が高い研修生たち

🍷 やりがいは？

花見山を訪れたお客さまから「苦勞様です」「花が咲くのを楽しみにしています」などの声を直接聞くことができるので、楽しみにしている人のために頑張って手入れをしようと思えます。

🍷 印象に残っているエピソードは？

祖父と父と一緒に仕事をした時期がとても印象深いです。

祖父が90歳を過ぎた頃に自分たちで散策路の舗装作業をした事がありましたが、その年齢になってもこれからの花見山の事を考え、花見山を造る姿を見て、まだ花見山は途上であり、これからも造り続けていくのだと強く感じました。



▲3月から4月にはさまざまな種類の花が楽しめます



We Love♥ ふくしま！ 第45回「この冬の大雪を振り返って」

少しずつ春の息吹が感じられるようになってきましたが、この冬は雪が多く、寒かった～。

年末から断続的に降雪に見舞われ、積雪は例年の2倍以上。気温も1.5℃ほど低く、雪が融けずに、市内随所で分厚く氷結しました。転倒してけがをする方も多く、けが人の数は福島県沖地震の8倍にもなる激甚災害級でした。

市では、除雪体制を強化し、除雪範囲も大幅に拡大。庁内や県、除雪業者間の応援のほか、造園業者などの応援も得て、総動員体制で除雪を進めました。それでも、除雪が追い付かず、市民の皆さまにはご迷惑をおかけしました。

新年度、除雪力強化パッケージを予算化する予定ですが、総延長3千kmの市道の除雪には、能力的にも予算的にも限界があります。今冬の除雪経費は、過去最大の4.1億円にも達しています。

災害としての雪害に対応するためには、市民の皆さまの自

助・共助が不可欠です。

雪に関しては、この冬から警報がなくても災害同様、SNSなどを活用して予報を伝え、注意喚起や除雪協力をお願いをするようにしました。町会や学校などに融雪剤を配布し、小型除雪機を貸し出すなど、市民活動への支援も強化しました。

こうした中、自分たちもやらなければと、自宅周りを雪かきする方が増えたように感じます。私の近所では、暗黙の協力関係で、高齢者宅や駐車場の前の歩道・横断歩道を除雪しており、また親子で雪かきする姿も結構見られました。普段以上のコミュニケーションの機会になっています。自宅周りだけでなく、東部地区では、消防団員を中心に「除雪隊」が結成され、通学路の雪かきが行われました。本当にありがたい限りです。

もうすぐ11回目の3.11。市民の絆の力をその遺産として引き継いでいきたいものです。



▲小型除雪機を使った地域の除雪活動

福島市長 木幡 浩

